

平成 21 年 6 月期

横浜市感染症発生動向調査委員会報告

平成 21 年 6 月 25 日
横浜市健康福祉局健康安全課
TEL045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
TEL045(754)9816

今月のトピックス

- 新型インフルエンザが市内で 26 例報告されました(6 月 24 日現在)。
- 伝染性紅斑が過去 5 年間で最も高い水準です。
- 手足口病、ヘルパンギーナといった夏の感染症が増えました。

平成 21 年 週 - 月日対照表

平成 21 年 5 月 18 日から 6 月 21 日まで(平成 21 年第 21 週から第 25 週まで。ただし、性感染症については平成 21 年 5 月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

第 21 週	5 月 18 ~ 24 日
第 22 週	5 月 25 ~ 31 日
第 23 週	6 月 1 日 ~ 7 日
第 24 週	6 月 8 ~ 14 日
第 25 週	6 月 15 ~ 21 日

全数把握の対象

1 **新型インフルエンザ**:6 月 6 日に、市内 1 例目の発生があり、6 月 24 日現在で 26 例の発生報告があります。性別の内訳は、男性 11 例、女性 15 例で、年齢の内訳は、10 歳未満が 6 例、10 代が 4 例、20 代が 5 例、30 代が 6 例、40 代が 3 例と、50 代が 2 例と若い人が多くなっています。海外渡航歴のあるものが 17 例です。重症例はありません。全国では、24 日現在 944 例の報告があります。また、横浜市衛生研究所で 4 月 28 日以降に新型インフルエンザに関連した検査を 542 件行いましたが、インフルエンザウイルスの検出数の内訳は新型インフルエンザ 27 件(1 件は横浜市外)、AH1(ソ連型)4 件、AH3(香港型)102 件となっています。

(横浜市新型インフルエンザ関連情報 <http://www.city.yokohama.jp/me/anzen/kikikanri/influenza/>)

2 **麻疹**:2009 年 6 月は 24 日現在で 1 例の報告があり、予防接種を 1 回受けていました。

ひと月で 100 例以上の報告があった 2008 年に比べてかなり少なくなっていますが、未だ患者発生がありますので、予防接種を 1 回受けていても、麻疹にかかっていない方は予防接種を生涯 2 回受けることが大切です。

2012 年の麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。

(日本は、2008 年 ~ 2012 年の 5 年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握

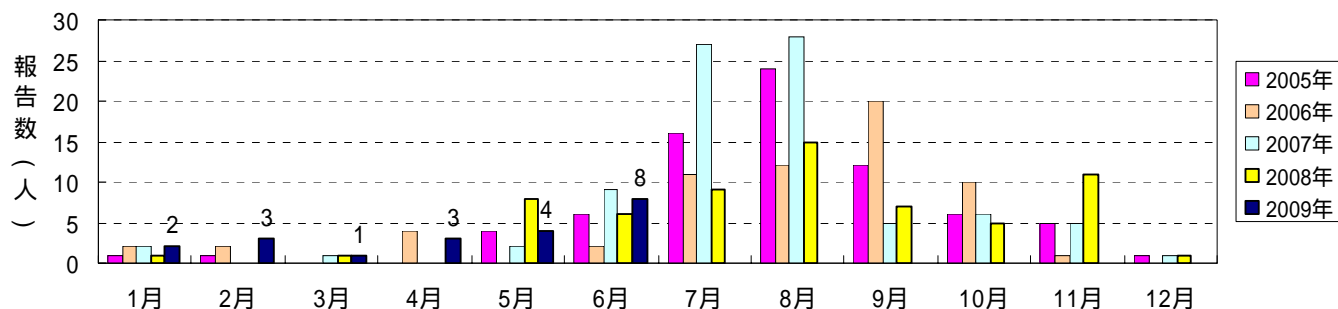
1 歳および就学前 1 年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる 2 回接種の徹底
5 年間に限り、中 1 及び高 3 相当の年齢の者への定期接種を実施

(国立感染症研究所ホームページ <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

3 **腸管出血性大腸菌感染症**:6 月の報告数は、24 日現在で 8 例です。今年に入って 21 例の報告があり、血清型の内訳は O157 が 12 例、O26 が 2 例、O111 が 2 例、O121 が 2 例、O145 が 1 例、O103 が 1 例、不明が 1 例で、性別の内訳は、男性 14 例、女性 7 例で、年齢の内訳は、10 歳未満が 4 例、10 代が 8 例、20 代が 1 例、30 代が 3 例、40 代が 2 例、60 代が 3 例と、10 代がもっとも多くなっています。毎年、夏に報告が多くなりますので、注意が必要です。例年レバーの生食による感染が見られます。

啓発用チラシ「O157 に注意しましょう」 <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

腸管出血性大腸菌感染症月別報告数



定点把握の対象

- (季節性)インフルエンザ:**今シーズンは、過去 5 年間で最も流行開始が早かった昨シーズンに次いで早く、2008 年第 49 週に流行の目やすとなる「定点あたり報告数 1.0」を超え、2009 年第 4 週に流行のピークとなりましたが、第 9 週から再び増加に転じ、第 11 週にもピークとなり、二峰性となりました。第 25 週は定点あたり報告数は 0.08 となりました。報告のあったのは 6 区のみです。川崎市は 0.07、神奈川県(横浜、川崎除く)は 0.10、全国は 0.24 でした。

迅速診断用検査キットによる型別の集計では、第 4 週をピークに減少し第 25 週には A 型 3 件(うち新型インフルエンザ 1 件)、B 型 3 件の報告です。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎:**昨年は、過去 5 年間で最も高い水準で推移していました。今年に入ってから例年並みの水準ですが、第 25 週は 2.61 と高めで推移しており、注意が必要です。行政区別では港北区(8.57)が高く、次いで保土ヶ谷区(5.40)、瀬谷区・都筑区(4.00)となっています。川崎市は 2.27、神奈川県(横浜、川崎除く)は 1.92、全国は 1.99 でした。
- 手足口病:**第 25 週は定点あたり 0.79 と、増加の兆しが見られます。例年夏にかけて増加してくることから、今後の動向に注意が必要です。川崎市は 0.61、神奈川県(横浜、川崎除く)は 0.10、全国は 0.36 と、いずれも横浜市より低い値です。
- 伝染性紅斑:**例年並みの水準で推移していましたが、第 13 週から増加し、第 25 週は定点あたり 1.44 と、過去 5 年間で最も高い水準で推移しています。川崎市は 2.12 でした。全国では、過去 5 年間の同時期と比較して低い水準で推移していて、第 25 週は定点あたり 0.22 でした。例年、6 月頃が一番高いようですので、今後の動向には注意が必要です。
- ヘルパンギーナ:**第 25 週は定点あたり 0.60 と、増加の兆しが見られます。川崎市は 0.36、神奈川県(横浜、川崎除く)は 0.25、全国は 0.41 と、いずれも横浜市より低い値です。例年、6 月末～7 月にピークを迎えるため、これからの季節は注意が必要です。
- 性感染症:**性感染症は、産婦人科系の 11 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 15 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。5 月は、4 月に比べて全体としては横ばいです。19 歳以下の若年層については、すべて女性で、性器クラミジア感染症が 3 例、尖圭コンジローマが 2 例、淋菌感染症が 1 例でした。

この感染症発生動向調査委員会報告とデータの詳細については、下記のホームページに掲載されていますので、他の記事と合わせてご覧ください。

横浜市衛生研究所ホームページアドレス URL:<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/>